

水稲新品種「シラヌイ」について

岡田正憲・今井隆典・木村弘美・西山 寿・甲斐俊二郎
(九州農業試験場)OKADA, M., IMAI, T., MOTOMURA, H., NISHIYAMA, H. and KAI, S.
A New Variety of Paddy Rice Plant, "Shiranui"

水稲西海71号は昭和39年から、福岡県・長崎県において有望品種・認定品種に採用され、通称名を「シラヌイ」として普及に移されることになったので、育成の経過ならびに特性の概要をのべて参考に供する。なお本品種の育成に直接従事した職員は山川寛・天辰克己(兼務)・藤井啓史および筆者等である。

来歴ならびに育成経過

シラヌイは昭和28年、農林省九州農業試験場で「十石」を母とし、「全勝26号」を父として人工交配を行ない、その後も同場で集団育種法と世代促進法を適用して育成されたものである。昭和36年以降「西海71号」の系統名で関係府県に配布して地方的適否を確かめ、昭和39年6月(F₁₂)、水稲農林156号に登録され、通称名をシラヌイと命名された。

特性概要

1. 形態的特性 極短程の穂数型であり、ホウヨクより約10cm位短程である。稈はやや細く、止葉はやや直立して熟色が良い。籾には白色の短芒が少しあり、臍粒し易い。粒着密度は中で、玄米は中形でやや大粒である。品質は中の上程度で、食味はやや良好である。

2. 生態的特性 熟期はホウヨクより1~2日早く、九州北半では中生に属する粳種である。倒伏には強いが穂首がやや細いのでなびき易い。普通のシラハガレ病菌系(S菌)には強く、葉イモチ病・穂首イモチ病に対してはやや弱い。モンガレ病にはやや強く、イネカラバエに対しても強い。やや大粒で穂数も多いため、収量は多肥栽培または肥沃地できわめて多く、この点本品種の最も長所とするところである。

3. 適地および奨励品種採用県 福岡・佐賀・長崎・熊本県など、有明沿海の特殊肥沃地帯またはやや肥沃地帯に最も適し、ホウヨク・コクマサリと並んで普通栽培・多収優栽培・直播栽培などに用いて多収が期待できる。

昭和39年度より福岡・長崎の両県で有望品種・認定

第1表 一般特性

形質	品種名	(比)		
		シラヌイ	十石	ホウヨク
熟期	別型	中生	晩生の早	中生
草	極短程, 穂数型	極短程, 穂数型	極短程, 穂数型	短程, 穂数型
出穂期(月日)	9.8	9.10	9.9	9.9
成熟期(月日)	10.30	11.2	11.1	11.1
程長(cm)	72.3	73.7	82.2	82.2
穂長(cm)	19.7	20.4	19.4	19.4
穂数(m ² 当木)	368	359	380	380
芒の有無	短	少・短	少・短	少・短
稈の光色	白	白	白	白
臍粒	易	極易	極易	中
倒伏	難	難	難	難
葉イモチ病耐病性	や弱	弱	弱	やや弱
穂首イモチ病	〃	〃	〃	やや弱
白ハガレ病	〃	〃	〃	やや強
モンガレ病	〃	〃	〃	やや強
イネカラバエ耐虫性	強	強	強	強
a当玄米重量(kg)	58.3	50.5	58.0	58.0
玄米千粒重量(g)	26.4	24.9	23.7	23.7
玄米品質	中上	中上	中上	上下
調査地	九州農試	多肥区	生換	
調査年次	昭37・38の2カ年			

品種に採用された。

4. 栽培上の注意 極短程穂数型であるため、地方中位以下の瘠薄地と秋落地には不適である。またイモチ病の常発地には不適であり、初発生に注意して防除対策の万全が望まれる。センチュウシンガン病にやや弱いので、播種前の種子消毒はきわめて有効である。この種の草型は加里成分の欠乏に敏感なので、不足しないように注意すること。

5. 命名の由来 不知火燃ゆる有明・不知火海の沿岸一帯の肥沃地に適することによる。

結 言

本品種は大粒で穂数も多く、きわめて多収であり、倒伏に強く、耐肥性に富み、シラハガレ病に強く、熟色良好でホウヨクよりやや早熟などの点が長所としてあげられる。短所としてはイモチ病とセンチュウシンガレ病にやや弱く、栽培条件によつては玄米に腹白が出やすいなどの諸点である。今後は十石、神愛・金南風などに代わるものとして普及が期待される。